

厚生労働省が「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会 研修運営ガイド」として案内しているプログラムは以下のとおり。

No	研修項目	時間(分)	形式	必要性
1	在宅医療が果たすべき役割	30	講義	○
2	在宅療養を支える医療・介護資源	15	講義	○
3	医療・介護資源マップの作成	40	演習	△
4	在宅ケアにおいてなぜ「専門職連携協働(IPW)が必要なのか	20	講義	○
5	領域別セッション（認知症、がん緩和ケア）	160	講義・ 演習	○
	昼食	(60)	-	-
6	在宅医が知っておくべき報酬や制度	20	講義	○
7	訪問診療の実際と同行研修の意義	20	講義	○
8	在宅医療を推進する上での課題とその解決策（グループ討議）	90	演習	○
9	修了証書授与	10	-	×
10	懇親会	90	-	○

計:555分

演習内容について

医療・介護資源マップの作成

「在宅医療を支える医療介護資源」の講義を受け、地域の医療・介護資源を白地図上に記載し、さらに「口コミ情報」などの質的な情報をグループ間で共有し、数字だけでは分からない内容を補完し、医療・介護資源マップを作成する。なお、地図へ記載するための参考として、医療・介護事業者の一覧が掲載されている資料を配布する。

領域別セッション(認知症、がん緩和ケア)

在宅において主要な疾患・病態に関する基本的な知識について、多職種が一律に学び、その上で多職種での討論を目的としたセッション。(事例検討方式)

※領域別セッションを選択する際には、在宅医療に取り組む医師が少ない地域においては、在宅医療に興味があるものの、実際には着手できていない開業医を中心に受講を促し、研修プログラムは「がん緩和ケア」や「認知症」といった在宅医療に関わる上で主要なテーマを取り上げることが推奨される。

在宅医療を推進する上での課題とその解決策

多職種で学んだ内容を踏まえ、今後受講者が現場に戻り、連携をしていくにあたり、「個人」、「組織」という単位を超えて、「地域」という単位で同じ方向を向くために、地域の課題抽出と、解決策についての議論を行う。

演習プログラム(例)

領域別
セッション

項目	時間(60分)
症例提示	5分
グループワーク	20分
グループ発表	15分
その後の経過とミニレクチャー	17分
質疑等予備	3分

在宅医療を推
進する上での
課題とその解
決策

項目	時間(75分)
KJ法の説明	5分
グループワーク	50分
グループ発表	20分

練馬区版 多職種研修会プログラム(案)

時間	研修項目	時間(分)	形式	講師
9:00	開会挨拶/主旨説明/来賓あいさつ	15	-	練馬区責任者
9:15	(1) 在宅医療が果たすべき役割	30	講義	医師
9:45	(2) 在宅療養を支える医療・介護資源	15	講義	練馬区担当者
10:00	(3) 在宅ケアにおいてなぜ「専門職連携協働(IPW)」が必要なのか	30	講義	医師
10:30	休憩	15	-	-
10:45	(4) 領域別セッション I (認知症)	60	講義	医師
11:45	(5) 領域別セッション II (緩和ケア)	60	講義	医師
12:45	昼食	60	-	-
13:45	(6) 在宅医が知っておくべき報酬や制度	30	講義	練馬区担当者 (メディヴァ)
14:15	(7) 訪問診療の実際と同行研修の意義(平成26年度の結果等)	30	講義	訪問看護師/ 練馬区担当者
14:45	(8)在宅医療を推進する上での課題とその解決策(グループ討議)	75	演習	医療介護従事者 ※ファシリテーター
16:00	懇親会	60	-	-
17:00	閉会	-	-	-

計:480分